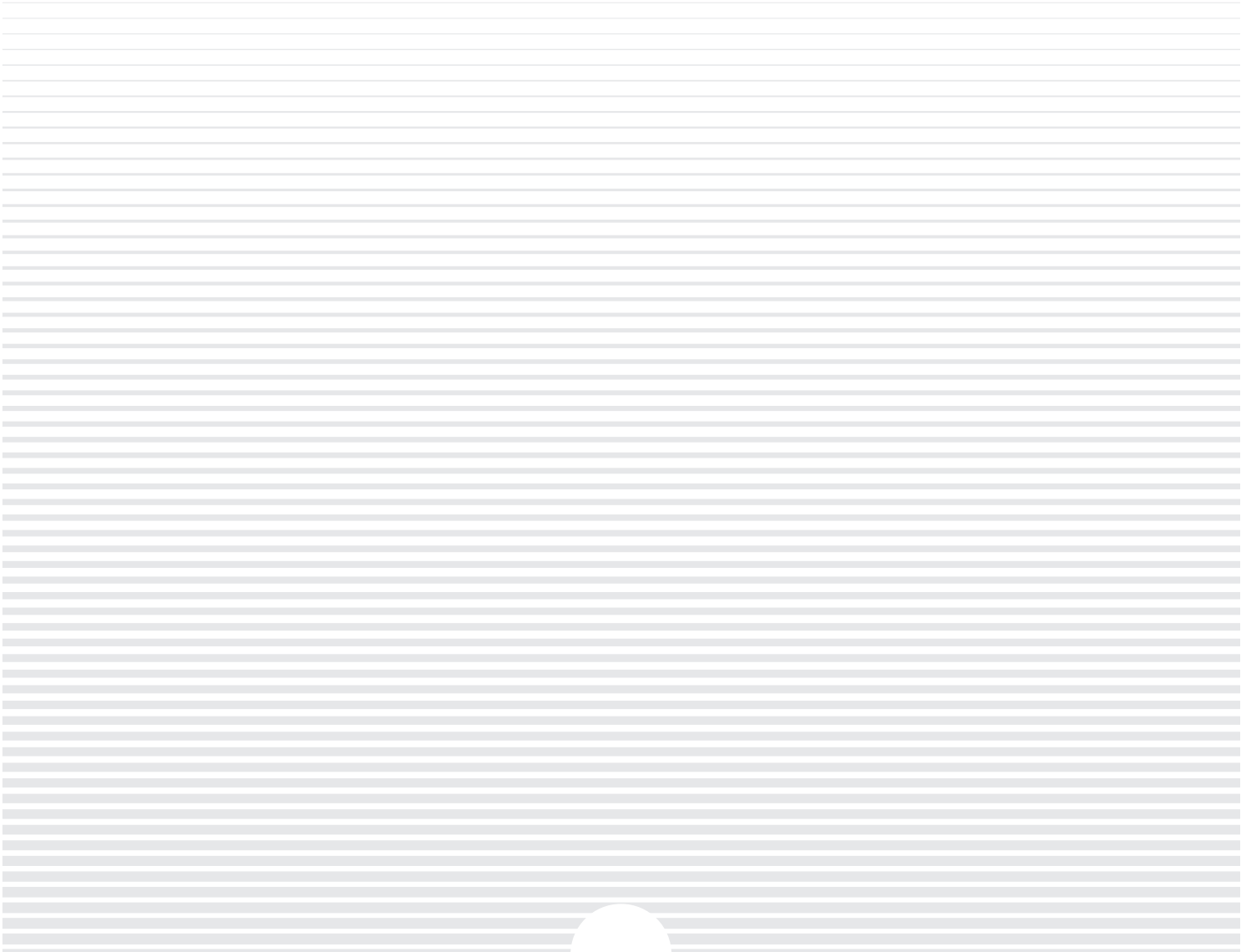


3.2

教育体制・産業界ニーズ 把握体制の整備・連携推進



(1)連携事業推進グループ活動報告

1. グループ事業の取組

産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業では、中部地域 23 大学と連携して、「アクティブラーニングを活用した教育力強化」と「地域・産業界との連携力強化」が行える教育プログラムを形成することになっている。豊橋創造大学では、社会人基礎力を養成すべき資質として位置づけ、そのための4つの教育プログラムを実施する。そして、その成果や失敗を広く開示するとともに他大学と共有することにより、よりよい教育体制を構築する。連携事業推進グループは、このような実施事業の成果と失敗の公表と他大学との連携を図り、本学における教育体制の整備を進める。また、実施する教育プログラムを教育効果の高い教育プログラムに改善するために、連携事業推進グループでは、学生の社会人基礎力の評価方法と教育への展開方法を検討し実施する。さらに、社会人基礎力養成プログラムの実施成果を他の授業に展開して、学生に早期の意識付けや態度・志向の養成を進める。

<<主なスケジュール>>

日程	実施事項
4月26日	第1回東海A(教育力)チーム 時間:10:00~12:00 場所:名古屋商科大学大学院伏見キャンパス E21 教室
5月18日	ワークショップ「教育改革の壁を破るチャレンジ」参加
5月23日	第2回 東海A(教育力チーム)会議 参加
6月7日	教育力改革フォーラム(第1回教育力向上研修会)実施
6月17日	教育効果測定・指導方法WG 第1回ミーティング
7月1日	教育効果測定・指導方法WG 第2回ミーティング
7月8日	教育効果測定・指導方法WG 第3回ミーティング
7月30日	第1回就業体験講座 実施
8月26,27日	東海A(教育力)チーム 連携FD合宿運営、参加
9月3-5日	平成25年度 教育改革ICT戦略大会参加
9月12日	第2回就業体験講座 参加
9月10日	東海A(教育力)チーム連携FD 「社会のニーズに対応した教育改革に向けて」 参加
9月17日	産業界ニーズに対応した人材育成研修会(主催:中部経済産業局) 参加
10月2日	「産業界ニーズ事業特別セミナー」(主催:中部大学) 参加
10月21日	インターンシップに関する企業担当者との座談会
10月24日	第3回 東海A(教育力チーム)会議 参加
10月28日	第2回教育力向上研修会 実施
11月14日	平成25年度 第1回中部圏産学連携会議(主催:中部地域大学教育改革推進委員会) 参加
11月27日	"教育効果測定・指導方法WG 第4回ミーティング"
11月28日	産学協同就業力育成シンポジウム2013(主催:Future skills)

	project 研究会) 参加
1月31日	シンポジウム「産業界ニーズに対応した初年次教育のチャレンジ」(主催:東海 A (教育力) チーム) 参加
1月31日	平成 25 年度達成目標に係る評価報告提出
2月3日	第 3 回就業体験講座 実施
2月6日	第 4 回 東海 A (教育力チーム) 会議 参加
2月12日	"教育効果測定・指導方法WG 第 5 回ミーティング"
2月19日	第 3 回教育力向上研修会
2月18日	シンポジウム「PBL で育む教・職・学 -同志社大学プロジェクト科目の事例から-」(主催:東海 B チーム) 参加
3月7日	H25 年度報告書提出
3月8日	大学教育改革フォーラム in 東海 2014 参加発表

<<主な行事>>

補助事業の全体を俯瞰して、教育効果を高めるための他大学連携や学内事業の調整や教育方法・評価方法の検討を行う。具体的に行う活動を他大学連携に係る活動と教育体制整備に係る活動に分けて示す。

(1) 他大学連携に係る活動

東海 A チーム (教育力チーム) 会合参加
 連携 FD の開催や参加
 平成 25 年度 第 1 回中部圏産学連携会議
 (主催:中部地域大学教育改革推進委員会) 参加
 他大学、他組織開催シンポジウムへの参加
 大学教育に係るフォーラムや学会での本学成果の発表

(2) 教育体制整備に係る事業

教育力向上研修会 (3 回)
 教育効果測定・指導方法WG の開催
 1, 2 年生などの下級学年での育成すべき資質の養成方法の検討
 就業体験講座 (1 年生) の開催 (3 回)
 経営ビジネス講座の開催 (15 回)

2. 活動成果

上記のように、連携事業推進グループの役割は、実施される 4 つの教育プログラムの成果を踏まえて教育体制の整備と産業界ニーズの把握体制を構築することである。また、成果や失敗を他大学と共有することにより、学生事業の推進や改善を図ることが本グループのもう一つの役割である。

平成 24 年度は、連携事業推進グループの補助事業全体における役割を明確化した。その役割に基づいて、学内の成果および失敗を取りまとめ連携大学に報告するとともに、他大学の状況の報告を受けて学内事業の考察を進めた。連携 FD や中部圏産業界ニーズ把握会議に専任教員が参加して、事業目的やその実施意義や方法についての認識を深めた。高い割合で、専任教員がこれらの事業に参加した。また、補助事業で展開する教育プログラムのみならず、他科目への展開方法や社会人基礎力の評価方法の検討を始めることができた。また、社会人基礎力の評価については、プロジェクト活動やインターンシップなど学生の



図 3.2.1 教育力改革フォーラム
(第 1 回教育力向上研修会)



図 3.2.2 東海 A(教育力)チーム 連携 FD 合宿



図 3.2.3 第 2 回教育力向上研修会

活動にもとづいて評価する仕組みと学生にフィードバックする方策を検討した。事業実施内容を大学教育改革フォーラム in 東海 2013 で発表報告した。

平成 25 年度は、育成すべき資質に関する評価のタイミングと総合的な活用方法について検討した。また、学生が自らの状況を評価内容に基づいて自省できるように、評価についての説明会や教員との面談機会を設けた。自らの行動計画についての考察する機会も設定し、自己理解を深化できる体制を形成した。複数実施する評価結果にもとづき教育効果の評価や次年度への活用を検討するために、教育効果測定・指導方法WG 開催した。また教員の指導力向上のために 3 回の教育力向上研修会を開催した。さらに、科目展開のためにキャリア形成科目群やゼミナール中心に、科目選定し学修マップをまとめた。これらをまとめると以下ようになる。

- ・育成すべき資質の育成を補助事業を含むキャリア形成科目等 14 科目で展開するために該当科目における学修計画を立案し集約した。一部の科目においては、教育方法の改善を図った。

- ・育成すべき資質養成は、種々の教育プログラムの中で活動と評価・内省を繰り返すことで展開することになっている。教育効果測定・指導方法WG で育成すべき資質の行動規範を定めてそれと照らして評価する方法を検討・改善した。その検討結果を専任教員へ周知した。

- ・3 回の教育力向上研修会を実施し、本補助事業の目的の徹底や学生指導方法について

の学習を進めた。ベネッセコーポレーションの FSP（Future Skills Project）の主催者を招聘し、学生指導方法の探求を行った。

- ・学生が直接社会（企業）と接する機会創出のために、就業体験講座、経営ビジネス講座を開催した。

- ・本学並びに他大学の実施状況の確認のためのミーティングに参加した。特に、東海 A チームの連携 FD 活動として合宿研修会を開催した。

3. 実施事業を踏まえた次年度の方策

平成 24 年度および平成 25 年度で、補助事業で目標としている学生の就業力、特に社会人基礎力を養成する教育体制整備並びに産業ニーズ把握の体制・制度の整理を行った。具体的には、上記に記載した内容である。これら検討した体制で、平成 26 年度は 1 年を通じた教育プログラムを運営し、教育体制や制度の評価を行う。